

第1日目 2019年9月14日(土)

午後の部 14:00~16:30

国際セッション

ひとり親家族支援の日韓比較

A comparison on the Support Systems for One-Parent Families between Korea and Japan

オーガナイザー・司会：神原 文子（神戸学院大学）

【企画趣旨】

「日韓ひとり親家族研究会」（代表：神原文子）では、5年以上にわたり、日本と韓国の研究者が協力して、日本と韓国におけるひとり親家族の当事者についての比較、両国それぞれにおけるひとり親家族の当事者を取り巻く社会的環境、とりわけ、社会的排除の実態についての比較、ひとり親家族を支援する法制度の比較、そして、ひとり親家族を支援する団体についての比較などを行ってきた。2016年度の日本家族社会学会第26回大会（開催校：早稲田大学）において、「ひとり親家族に対する差別、社会的排除、社会的支援に関する日韓比較」と題する国際セッションにおいて、日韓合わせて4報告を行った。

今回は、日本と韓国におけるひとり親家族支援のあり方に焦点をあてて比較し、両国のひとり親家族支援の違いを生み出している社会的諸要因を検討することとおして、両国それぞれのひとり親家族支援における課題を明かにする。韓国から3名の共同研究者を招いて報告をいただく。協成大学・ソン教授は、韓国における民間のひとり親家族支援団体へのインタビュー調査から見えてきた現状と課題について報告する。協成大学・キムヒジユ助教授は、近年、韓国における脆弱層の女性の妊娠、出産から育児期への支援について、未婚で妊娠・出産する女性への支援と比較し、現状と課題について報告する。大阪府立大学・田間泰子会員は、日韓の未婚母／非婚母支援から見る家族規範と女性のエンパワメントについて、支援組織と当事者双方へのインタビュー調査から、両国における家族規範と社会的課題を考察する。神原は、日本と韓国におけるひとり親家族支援団体を相互に比較しながら、支援の違いとその要因について考察する。

本研究は、神戸学院大学研究倫理委員会の承認を得て行われた。

本セッションは、日本学術振興会科学研究費助成事業「ひとり親家族を生活主体とする支援のあり方に関する日韓共同研究」（研究代表者：神原文子：平成29年度～平成31年度基盤研究(B)の一環として実施するものである。